



# 華となれ!

宮城県仙台二華中学校  
学校だより 第30号  
【発行日】平成28年11月29日  
【連絡先】022-296-8104  
【文責】副校長 中澤宏一

【校訓】 『進取創造』『至誠貢献』

【教育方針】 豊かな心と高い知性を持ち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する。

## 「第65回 県下女子中学生弁論大会 最優秀賞」

11月18日（金）、昭和27年から続く「県下女子中学生弁論大会」が聖和学園高等学校薬師堂キャンパスを会場に開催されました。この大会は、今年で65回目を迎える長い歴史を重ねてきたもので、本選出場前に、原稿・テープ審査が行われる大きな大会です。

今年は県内各地から21名が本選に臨み、本校から参加した3年生平間さんが見事、最優秀賞を受賞しました。内容はもちろん、歯切れの良い発表は本当に素晴らしかったです。そして、仙台二華中学校からの最優秀賞選出は初めての快挙です。（発表全文を紹介します）



「早く行こうよ。」

玄関で騒ぐ弟の声が聞こえ、私は慌ててテレビを消し、年に一度の七夕祭りに出かけました。駅前から続くアーケードでは、色とりどりの七夕飾りが吊されており、写真を撮ったり、ちょっと触れてみたり、家族で楽しみながら歩きました。

広場を抜けると、笛の音と共に赤い提灯がたくさん見え、盆踊り大会が行われていました。それまでの私は、盆踊りは少し古臭い印象があった上、大勢の人の前で踊るのはとても恥ずかしく、正直興味が持てませんでした。

しかし、高齢者だけでなく、多くの子供や若者、そして外国の人が楽しそうに参加しているのを見て、自分が恥ずかしくな

りました。白髪のおじいさんが、観光客らしき外国の方の手をとり、右、左と声をかけながら、優しく教えています。おじいさんのお手本の踊りは、とても上手でした。こんなにも多くの人々が一つの輪になり、笑顔で踊っている。

その時弟が、

「仙台って、平和じゃない。」

と、話しかけてきました。同じようなことを考えていた私は、弟の言葉に驚きました。私も、仙台の街がとても平和であると感じ、温かい感情が心に流れてくるのを感じていたのです。

実は、お祭りに出かける時見ていたテレビは、世界中で頻発しているテロのニュースでした。いつからでしょう。テロのニュースに慣れてしまい、私の中の驚きや犠牲者への悲しみが薄れてしまっているところがあります。何の罪もない、ただ普通の生活をしてきた人が巻き込まれたニュースを見て、私はお祭りに来ていたのです。赤い提灯が並び、浴衣を着た人やはちまきを巻いた人が楽しそうに踊っているのを見て、ふとそのニュースを思い出しました。と同時に、私は平和な日本に生まれて良かったなと感じていました。

平和とは何でしょう。あまり深く考えたことはありませんでした。人々が安全に暮らせる社会のことでしょうか。辞書で調べてみると、「戦争もなく世の中が穏やかであること」とありました。驚きました。たったそれだけのことを、私たち人間はできないのです。逆に、対義語は戦争でした。もちろん、戦争がない、イコール平和、ではないことは分かります。

では、平和を壊すものとは何でしょう。それは、戦車や機関銃ではなく、それを操る「人」ではないかと、私は思う

のです。人間同士の恨み、怒り、憎しみ…。これらの感情は、人の心の安定が欠けたことからくるのではないのでしょうか。そして、その原因は、満足に食事がとれない、穏やかな時間がないなど、環境の悪さにいきついてしまいます。劣悪な環境が人々の心を不安定にし、その心の不安定さが環境を悪くします。この悪循環が、平和を壊す一番の大きな原因だと思うのです。

何も行動しないところからは、平和も戦争も生まれません。たとえ言葉は通じなくても、身振り手振りで一生懸命踊りを教えていたおじいさんの行動は、まぎれもなく平和な世界を作るための第一歩だったと思います。

またあの時、弟と私の思っていたことが同じだったことは一つの喜びでした。私たちのような中学生がこの問題を考えることは、決して無駄ではないはずです。

その後私は、勇気を出して盆踊りの輪に入ってみました。いざ踊ってみると、踊れないことは何も恥ずかしいことではありませんでした。見よう見まねで踊った盆踊りはとても楽しく、むしろ新鮮に感じました。来年は大切な人たちを誘って、また盆踊りに参加しようと思います。来年の夏はもっと上手く踊れているのでしょうか。高校生へと成長した私が、平和をつなぐ一員として。

## 「 高校2学年 グラム研修旅行 」

11月20日（日）～24日（木）（B隊は21日（月）～25日（金））4泊5日の行程で、高校2年生の海外研修旅行が行われました。

研修旅行は以下の3点を目的に行われました。

- 1 日本と異なる国の自然・社会・文化等に触れ、国際的な視野を広げ豊かな国際感覚を育成する。
- 2 集団生活を通して、生徒相互の親睦、生徒と教員の相互理解を深め、高校生活をより豊かなものにする。
- 3 現地での語学研修を通して、生きた英語の運用能力の向上を目指し、英語学習への意欲を喚起し積極的な態度を育てる。

課題研究の時間を使った事前準備が十分に行われ自信を持って研修に参加する生徒がほとんどでした。

下の写真は、仙台空港で行われたA隊出発式と帰りの新幹線に向かって校舎屋上から校旗を降る様子です。



（ 出発式で教頭の話聞く様子 ）



（ 搭乗口へ向かう手続きを待つ様子 ）



（ 仙台駅到着間際 生徒を乗せた新幹線を校旗で迎える様子と実際に掲げた校旗 ）